

京都帝國大學法學科大學

# 經濟論叢

第五卷 第四號

大正六年十月一日發行

## 論說

物價變動ノ原因(一).....法學博士 河上 肇

經濟的行爲ト道德的行爲トノ關係(二).....法學博士 田島 錦治

所得稅ニ於ケル所得ノ意義(三).....法學博士 神戶 正雄

同盟罷工ト和解及仲裁制度(四).....法學士 河田 嗣郎

墨子ノ經濟思想(五).....法學士 小島 祐馬

割地ト村落制トノ關係.....法學士 牧野信之助

現代的保險ノ成立(六).....法學士 小島昌太郎

## 時事問題

米國ノ參戰.....法學博士 戸田 海市

物價調節ノ意義及效果.....法學士 河田 嗣郎

## 雜錄

りすとノ經濟發達階段說.....法學士 本庄榮治郎

各國ニ於ケル物價騰貴ノ趨勢.....法學士 山本美越乃

戰後ノ太平洋定期航路.....法學士 小島昌太郎

朝鮮ノ關稅ニ就キテ.....法學博士 神戶 正雄

露國ノ定期刊行物ニ就テ(七).....文學士 高倉 壽輝

しゆもらあ教授ノ史傳ニ就テ.....文學士 長 壽吉

## 同盟罷工と和解及仲裁制度 (其二)

河 田 嗣 郎

### 六 和解及ビ仲裁制度ノ是非

前號ニ於テ吾人ハ同盟罷工ノ意義、目的、種類、是非及ビ其ノ數ト結果ナドノ諸方面ニ就キテ論議シ、同盟罷工ナルモノノ大體ノ性質ハ略ボ之ヲ明カニスルヲ得タト信ズル。仍テ今ヤ進ムデ、此ノ其レ自身トシテハ禍害タルヲ免レザル同盟罷工ノ防止策ニ就イテ講究シテ見タイト思フ。

同盟罷工ハ現時ノ經濟組織特ニ勞働雇關係ノ下ニ於テ、勞働者ガ其ノ勞働條件ノ改善ヲ要求シ其ノ要求ヲ貫ク方法トシテハ、洵ニ已ムヲ得ヌ手段デアリ、勞働者ハ他ニ頼ル可キ有效ノ手段ナキガ故ニ已ムヲ得ズ此ノ手段ニ訴フルノデアルガ、同盟罷工ナルモノハ元來雇主側ニ對シテ損害ヲ與ヘ、之ニ由リテ強イテ雇主ノ意思ヲ制シ以テ勞働者側ノ主張要求ヲ容レシメントスル一ノ抑壓手段タルガ故ニ、ソレ自身トシテハ一ノ禍害タルヲ免レ能ハザルコト既述ノ通りデアル。サレバ若シ今何等カノ方法ニ依リテ此ノ禍害タル最後ノ強制手段ニ訴フルコトナクシテ勞働爭議ヲ解決ス可キ道アリ、又一ト度起リタル同盟罷工モ能ク之ヲ中止セシメ然カモ能ク勞働者側ニ於ケ

ル要求ノ正當ナル場合ニハ之ヲ貫徹セシムルヲ得ルノ方法ガアルナラバ、ソハ洵ニ歡迎セラル可キモノデナクテハナラヌ。此ノ方法トシテ現今迄ノ所ニ於テ最モ注目ニ値スルハ、彼ノ同盟罷工ノ和解及ビ仲裁制度 The Conciliation and Arbitration 之デアル。

舊テ歐洲諸國ニ在リテハ、同盟罷工ニ對シテハ國家ハ其ノ禍害タル方面ノミヲ見テ、ソノ正當ナル權利要求タリ、労働者ノ自由行動ニ屬スルモノタルノ性質ヲ閑却シテ、法令ノ力ニ依リテ一概ニ之ヲ禁止シ、刑罰ヲ以テ其禁ヲ勵行シタノデアル。<sup>17)</sup> 然ルニ後漸クニシテ權利思想ノ發達シ自由ノ重ンゼラルルニ至リ、又現時ノ大工業發達シテ然カモソハ所謂自由競争ノ大原則ノ上ニ立ツ經濟組織ニ於テ行ハレ、労働ノ自由契約ノ制確立スルニ至レルト共ニ、同盟罷工モ亦労働者ノ労働契約ニ關スル去就ノ自由ヨリ出ヅル權利行爲ニ外ナラザルモノタルコトノ一般ニ承認セララルニ至リ、其ガ暴行脅迫等ノ如キ他人ノ權利ヲ侵害シ又ハ社會ノ安寧秩序ヲ紊ルコトナキ限リハ、一概ニ之ヲ法令ノ力ニ依リテ禁止スルコトノ却ツテ不法ナルヲ思ハルルニ至ツタ。其ノ結果現今ニ在リテハ、何レノ文明國ニ在リテモ、同盟罷工ヲ以テソレ自身不法行爲トシテ禁止スルモノハナク、労働者ノ契約自由ノ範圍内ニ屬スル權利行爲ト認メラレ、之ニ對スル禁止令ハ一般ニ廢止セラレ、却ツテ労働者ノ結社ノ自由及ビ團體的ナル行動ノ自由ガ認めラルルニ至ツタ。<sup>18)</sup>

サレバ今ヤ文明諸國ニ在リテハ同盟罷工ヲ違法行爲トシテ禁止スルモノハナイガ、近時大工業

17) E. Bernstein, a. a. O. S. 102.  
18) Bernstein, ebenda.

ノ驚ク可キ發達ト共ニ勞働爭議ノ彌ガ上ニモ紛糾シ來リ、同盟罷工ノ如キモ其數ト範圍ト效果トヲ増シ來リ、爲メニ生ズル禍害モ甚ダ著大ナルモノアルニ至リタルガ爲メニ、違法行爲ニハアラズトモ禍害ヲ伴フ行爲タルニハ相違ナキガ故ニ、可成其ノ禍害ヲ回避シ除去シ若クハ少クトモ減少セシメントスルノ目的ヲ以テ、勞働爭議ノ起ルニ際シテハ、和解及ビ仲裁ノ方法ニ依ツテ、或ハ雇主及ビ勞働者ノ兩當事者間ニ自主的ニ、或ハ國家若クハ地方團體ノ介入ヲ加ヘテ、禍害ヲ生ズルコトナクシテ然カモ爭議ノ解決ヲ見ントスルノ企テノ熱心ニ行ハルルニ至ツタ次第デアル。而シテ此ノ勞働爭議ニ關スル和解及ビ仲裁ハ一ノ制度トシテ國ノ法令ヲ以テ其ノ組織效力等ヲ定メントスルノ風漸クニ熾トナリ、既ニ大多數ノ文明國ニ在リテハ後ニ之ヲ詳カニス可キガ如ク之ニ關スル公ノ制度ヲ見ルニ至ツタ次第デアル。

仍テ先ツ少シク此ノ和解及ビ仲裁制度ニ對スル勞働者側ノ態度ヲ見ルニ、是ハ彼等ノ抱懷スル主義見解ノ奈何ニ由リテ自ラ大イニ其ノ趣ヲ異ニシテ居ル。社會主義ノ見地ニ立ツ者ハ固ヨリ此ノ和解及ビ仲裁ノ制度ニ對シテハ好意モ信任モ持ツテ居ラス。彼等ハ即チ資本主タル雇主ト勞働者トハ階級的ニ截然ト相別レタル全然別個ノ世界ニ住スルモノデ、然カモ雇主ノ利益トスル所ハ勞働者ノ不利益トスル所タルヲ免レズ、兩階級ハ利害正ニ相反スル關係ヲ有スルモノデアルカラ、兩者ノ間ニハ共通ナル何物モ無く、共通ナル何物ヲモ持タヌガ故ニ共ニ立チテ和解ス可キ共

通ノ基礎ナク、又仲裁ニ由リテ見出ス可キ「コムプロマイズ」ノ素地ハ無イト考ヘテ居ル。即チ雇主ト労働者トハ利害相反スル敵デアル、從テ兩者ノ間ニ生ズル労働争議ハ階級闘争ニ由ツテ之ヲ解決スルノ外ニ道ハナク、同盟罷工ノ如キハ取モ直サズ此ノ階級闘争ノ一發顯デアツテ、己ニツガ闘争タル限り力ノ争デアル、力ノ争タル限りハタダ戦ツテ見テ力ノ優レタル者ガ勝チ其ノ劣リタル者ガ敗タルノ外ハナイ。闘争ヲバ和解ヤ仲裁ニ由ツテ平定セントスルハ必竟之レ一時ヲ糊塗スル纏縫タルニ過ギヌ次第デ、所詮何等ノ解決モ之ニ由ツテ得ラル可キデハナイ。唯ダ戦ヒ、不幸ニシテ敗ルレバ暫ク雌伏シテ英氣ヲ養ヒ再ビ又戦ヒ、幾度モ戦ヒ戦ヒテ終ニ労働者ガ經濟全體ヲ支配スルヲ得ルノ組織ヲ造リ得ルニ至ツテ輒チ休ム可キデアルト信ジテ居ル。要スルニ労働争議ニ關スル和解及ビ仲裁ニ就イテハ労働者ハ資本主ニ對シテ和解ス可キ若クハ仲裁サル可キ何等ノ共通要素ヲ特タヌト云フノガ彼等ノ考デアアル。

此考ハ固ヨリ極端ナルモノデ、然カモ之レ實ニ社會及ビ經濟ノ組織ノ根本ニ關スル理想ヨリ出デ來リタルモノナレバ、労働者ノ多數ガ斯カル考ヲ懷イテ居ル譯ノモノデハ決シテナイ。大多數ノ労働者ハ彼ノ Trade Unionism ニ據テ立ツモノモ、労働争議ノ和解及ビ仲裁ト云フ事ニ對シテハ然カク絶對的ニ又根本的ニ反對スルモノデハナイ。己ニ労働ガ一ノ契約トシテ法的關係ノ下ニ賣買セラルルモノナラバ、之ヲ賣ルト賣ラザルトハ労働者ノ自由デアリ、之ヲ賣ルニ就ケテハ其

ノ條件ニ於テ賣手タル労働者ノ希望ト買手タル雇主ノ意思トガ合致スルヲ要スルヤ又言ヲ待タザル所デアアル。而シテ今其ノ労働條件ニ關シテ雇主ト労働者トノ兩當事者間ニ意思ノ合致ヲ見出し得ズシテ同盟罷工ノ行ハレ、其ノ合致ヲ見ル迄労働者ハ其業ヲ罷ムルコトトナリタル場合ニ、其ノ罷工ハ即チ之レ労働ノ賣買契約ノ條件ニ關スル争ヲ決定スル手段タルニ外ナラザレバ、今若シ和解及ビ仲裁ノ行ハルルアリテ、ソレニ由リテ能ク其ノ労働ノ賣買條件ニ關シ兩當事者間ニ意思ノ合致ヲ見出し得可シトナラバ、ソハ實ニ同盟罷工其ノ物ガ合理的ナルト同様ニ合理的デナクテハナラス。同盟罷工ハ合理的ナレドモ其ノ和解及ビ仲裁ハ不合理ナリトハ、兩者共ニ之レ同様ニ契約條件ニ關スル意思ノ合致ヲ見出す可キ手段タル限リハ言ヒ得可カラザル所デアアル。然リ而シテ其ノ和解及ビ仲裁ガ労働者自身ノ發意ニ出デタルト、雇主ノ發意ニ出デタルト、將又第三者タル國家ノ發意ニ出デタルト、其ノいしやち一ぶガ何レニ在ルカハ、ソガ意思合致ヲ見出す可キ手段トシテ有スル合理性ヲ寸毫モ傷クルモノデハナイ。ソガ兩當事者何レカノ發意ニ出デタルニセヨ、第三者タル國家ノ發意ニ出デタルニセヨ、兩當事者ガ自由ノ意思ニ由リテ之ニ參加シ、又自由ニ其ノ意思ヲ披瀝シテ和解ノ條件ヲ議定シ、又仲裁ニ從フト從ハザルト又其ノ條件ヲ吟味スルノ自由ヲ有スル限リ、之ガ爲メニ労働者ノ權利ガ寸毫モ侵サルルモノデハナイ。故ニ例ヘバ仲裁裁判ガ國家ノいしやち一ぶノ下ニ行ハルトモ、労働者ガ自由ノ意思ニ依リテ其ノ仲裁裁判

ニ参加スルヤ否ヤ、又其ノ裁判ノ決定スル所ニ從フヤ否ヤノ選擇ノ餘地ノ殘サルル限りハ、労働者ノ權利ハ十分尊重セラレタルモノデアツテ、同盟罷工ヲ爲スコトガ其ノ權利行爲タルガ如ク、和解及ビ仲裁ニ参加シ又其ノ決定ニ從フコトモ等シク又其ノ權利行爲タルニ戻ラヌ。

サレバ方今ノ大多數ノ労働者及ビ其ノ團體タルつれど、ゆにおんハ和解及ビ仲裁ノ制度ニ對シテ、敵意ヲ有スルモノデハナイ。大多數者ハ之ヲ正當ノモノト見テ居ル。然シ乍ラ如何ナル程度マデ此ノ制度ニ信賴シ其ノ效果ヲ認め、之ニ依賴シテ以テ労働争議ノ決定的解決ヲ得ント欲スルカハ、自ラ別問題ニ屬スル次第デアツテ、ソレハ實ニ國々ノ事情ニ依ル。制度ノ組織及ビ活用方法ノ如何ニ由リ、之ニ對スル労働者ノ信賴ノ程度モ種々相異ルノミナラズ、國民ノ性質、労働者一般ノ氣風等ニ由リテモ亦異リ來ラザルヲ得ザル所デアル。

然ルニ國ニ依リテハ和解及ビ仲裁ノ制度ヲ強制的ノモノト爲シ、國家ハ一定ノ條件ノ備ハレル場合ニ於テハ強制的ニ争議ノ當事者タル雇主及ビ労働者ヲシテ和解ニ参加セシメ、又仲裁ノ決定ハ所謂判決トシテ之ニ強制力ヲ有セシメ、當事者ニシテ其ノ判決ヲ遵奉セザル場合ニハ之ニ罰金ヲ課スルコトニ依リテ其ノ強制ヲ勵行スルノ制ヲ探レルモノガアル。先ニ定メラレタルにゆゑ、<sup>19)</sup> じらんどの制度ノ如キハ之デアル。斯カル制度ノ下ニ於テハ、和解及ビ仲裁ニ對スル参加ハ労働者ノ自由選擇ニ委サレザルノミナラズ、和解ノ成立セザル場合ニ於ケル仲裁判決ハ強制セラレ

19) E. Bernstein, a. a. O. S. 104.  
C. Mote, Industrial Arbitration, p. 118——  
M. Gisi, Einigungsamt und Schiedsgericht u. s. w., Basel 1907. S. 57 fg.  
Graf L. Skarzynski, Arbeitsausstände und Arbeiterverbände, Berlin 1908,  
S. 145 fg.

勞働者ハ又之ヲ遵奉スルト否トニ對シテ選擇ノ自由ヲ有セザルモノデアル。今斯カル制度ハ勞働者ノ權利ヲ侵害スルモノニアラズヤトノ疑問ガ起ラヌトモ限ラヌガ、現今法治國ノ下ニ於テハ、吾人ノ生活ハタダニ勞働ノ賣買契約ノミナラズ實ニ多數ノ方面ニ於テ法律上ノ契約其他諸多ノ法律關係ヲ有スルモノデアツテ、然カモ之ニ關スル爭議ハ大抵國家ノ裁判ノ判決ヲ以テ治定セラレ、各個人ハ其ノ判決ニ從フヲ以テ權利ノ喪失ト考フル者ハナク、皆喜ンデ之ニ從ヒ、ヨク之ヲ遵奉シ之ニ由リテ以テ法律上ノ爭議ノ決定ヲ得、其生ヲ安ンジ行クガ故ニ即チ方今ノ生活ハ法的な生活ナリト稱セラレ、所謂法治ノ意義ハ茲ニ成立スル次第デアル。然ラバ即チ今勞働ノ契約條件ニ關シテ勞働者ガ國家ノ裁判ニ服シタレバトテソハ決シテ寸毫モ其ノ權利喪失ヲ意味スルモノデハナイ。法治ノ一般原則ノ認メラルル限り、換言スレバ現時ノ法治的ナル社會生活ノ組織ノ肯定セラルル限りハ、國家ガ勞働爭議ニ關シテ強制裁判ヲ行ヒ其ノ判決ヲ強行スルトモ、ソハ決シテ個人ノ權利ヲ侵害スルモノト云フコトハ出來ヌ。サレバ若シ今、勞働爭議ニ對スル和解及ビ仲裁ノ制度ガ強制的ナル場合ニ於テ、其ガ強制ナルガ故ニ不當ナリト考フル者アラバ、ソハヤハリ前ニ述べタル社會主義者ノ考ノ如ク、現今ノ社會生活ノ組織ヲ其ノ根本原則ニ於テ批評シ、其ノ改造ヲ希望シ、或理想ノ爲メニ之ニ到達セントスル手段トシテ同盟罷工ナドノ行ハルルト爲ス者ノ考タルニ外ナラス。然カク考フルコトハ誤レリトカ然カク考ヘテハ惡イトカ、然カク考ヘテハナラス

トカ謂フコトハ出來ヌガ、此考ト現今ノ社會制度ノ根本原則ヲ肯定シテ其上ニ議論ヲ築ク者ノ考トハ、全然其ノ立場ヲ異ニスルモノナルコトヲ忘レテハナラヌ。

而シテ現今大多數ノ勞働者ハヤハリ現社會組織ノ根本原則ヲ肯定スルモノデアアルカラ、其限リニ於テ彼等ハ勞働爭議ノ和解及ビ仲裁制度ヲ是認シ、之ヲ是認スル以上ハ又ソガ強制的ナル場合ニ於テモ其爲メニ之ヲ否認スルコトハナイノデアアル。理論上ソレハ出來ナイノデアアル。サレバ即チ現今勞働爭議ニ對スル和解及ビ仲裁ノ制度ハ、ソガ強制的ナルト任意のナルトニ別ナク、大多數者(獨リ勞働者ノミナラズ)ニ依リテ、其ノ主義ニ於テハ肯定セラレ承認セラレタルモノナリト決論シテ間違ハナイ。唯ダ之ニ對スル信頼ノ程度、從テ其ノ實際ノ運用上ノ效果ニ至ツテハ、問題ハ自ラ別問題デアアルカラ、此點ニ關シテハ後ニ事實ニ照シテ之ヲ攷察スルデアラウ。(次號完結)